

## 秋本番・新ブランドと 新スタッフで、飛躍のシーズンに

九四秋より新ブランド  
ハウス・オブ・ホワイトカシミアがデビューします。  
独自のカシミア作りで、世界一をめざします。

新スタッフ・浦本啓治・よろしくお願ひします。

この業界では私よりずっと先輩です。私がまだ旅行屋の頃、彼はフランポアゼ（ニットメーカー）で営業責任者として活躍していました。

フランポアゼ初めての、フィリピンへの海外、社内旅行で彼が幹事。この時の出会いがきっかけです。それから3年後、フランポアゼから生まれたレ・アールへ自分が入るとは.....

九四秋物より、先物・展示会発注分の掛け率を五十九%から五十二%に変更します。  
追加分やシーズンイン商品は従来通りです。

### 一九九四 秋物展

五月十二(木) 十三(金)と翌週

十七(火) 十九(木)

小社にて開催します

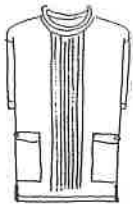
大型連休も、この通信作りで終わってしまいました。一日で完成させるのも実力なら十日かかるのも実力。  
残念ながらもっともっとかかってしまい、自分の無能さをつくづく感じています。

今回の展示会はちょっと見物ですよ。きれいな色目のがウールが中心です。好評だった本糸の商品も増やしました。

それとカシミア。カシミアなんてタイエーで七千九百円で売っているよという方、ちょっと待ってください。やっぱりカシミアはいね〜とって頂くこと請合いです。十二ゲージの天竺だけがカシミアではありませんよ。

是非ご覧下さい

### 夏物展 best-3



#### 7色展開

オフ、クリーム、サンドグリーン、ブルーピンク、ベージュ、モカベージュ

12ゲージ 天竺 前一部針ぬき  
ロングタイプ、ロールネック、それに両ポケットと後ろに包みボタンが大人の可愛さを演出。現在若干の在庫あり

NO. 1232 AC55% C20% RY25%  
上代¥19,800



#### 7色展開

オフ、クリーム、サンドグリーン、サックスオレンジ、グレイ、ブラック

10ゲージ 天竺 針いぬき  
麻とシルクの素材感が、涼感をさそいます。ネックや裾の縞柄が好評でした。  
長袖カーディガンとのアンサンブル展開です。カーデ、半袖とも在庫ほとんどナシです。  
スミマセン

NO. 1216 L55% S145%  
上代¥14,800



#### 6色展開

オフ、クリーム、サンドグリーン、サックスオレンジ、グレイ

7ゲージ 畦・手横  
おシャレ感覚のたかい手横ならではの商品、展示会でほとんど完売状態でした。  
在庫ゼロ、もっと作れば良かったと反省！  
このジャンルは来シーズンも継続予定

NO. 1229 L100%  
上代¥16,800



南青山境界

青山通りと骨董通りのぶつかる角は、以前はガリンスタンドでした。

昨年秋に、立派なビルに生れ変わり、一、二階にマックスマラーのショップがはいり、この辺のグレードアップに一役買っています。

この場所にガソリンスタンドともう一軒、洋書だけを扱う嶋田洋汗書画店という小さな店がありました。

丸善などの堅い書籍というより、写真集や絵本などを中心とした、楽しい本がたくさんある洋書屋さんです。

現在は、青山通りから一本入った、芸能紙によく登場する、青山第一マンションの向かい側に移ってしまっただけで分りづらくなったのですが、一塵立ち書ってみる価値は十分ありますよ。



ソニア・リキエルなどのショップがある潇洒なミニ・ショッピング街の一角です。

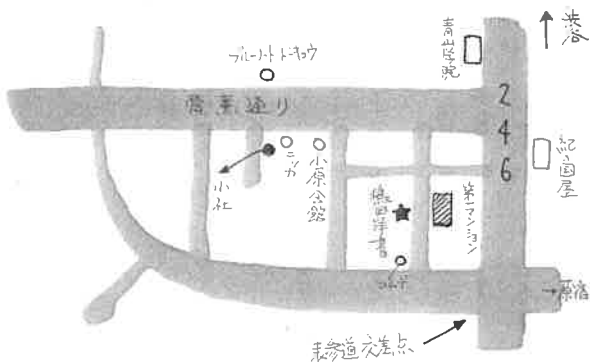
ガラス張りになったので、明るく洋書屋のよそよそさがなくなりました。

外国語のタイトルなので、探すのが不便ですが、写真集が主なので、探すこと自体がなかなか楽しいものです。風景、花、庭園、インテリア、ファッションそれに車、ペット等々。

この頃は日本の本、とくに写真集の値段が高くなり過ぎたのと、円高のために、けっこう安く感じます。

またタイミングが良いと、パーゲンセールをやるときがあるので、かなり安く買えるときがあります。

日本では古本以外はまだまだ定価販売なので、とっても得た感じになります。



掛け率五十二%に

ハイリスク・ハイリターンに

掛け率、これはどのアパレルにとっても一番大事な問題の一つです。
「こちらが高いに、お店は低いに越したことはないですよ。でも売れなければはじまらない。それに業界の常識らしきものもある、もちろん掛け率を低くするために、上代を上げるなんていうのは問題外。あくまでも適正価格に対しての掛け率の話です。」

この秋の展示会から先物受注分の掛け率を、今までの五十九%から思い切って五十二%に変更することにしました。もちろん枚数制限はありません。一型でも一枚でもOKです。本当は多いほど嬉しいのですが。

これは、せっかくリスクを持って早々と展示会で注文して頂くお店に、なんとかお返ししなければと常々思っていたからです。

他のアパレルの事はわかりませんが、小社にとって先物を発注して頂けることは、リスクが軽減される分、大変なメリットなんです。

お店としては、二ヶ月も三ヶ月も前に発注することは、シーズンに入ってから仕入れるより、ずっとリスクが高く、その分小社はリスクが少なくなるわけです。
だから、そのリスクの見返りは当然お店にあるべきだと思っております。

それで、いろいろ、何回も何回も計算した結果、五十三%にした次第です。
これが限界なんですハイ。

追加分やシーズンに入ってからの商品は、小社がリスクして作り置いたものということで、従来の掛け率にさせて頂きます。
なかなかグッドだと思いませんか？

本来ならば、欧米のように、いくらの下代で仕入れようが、上代はお店に自由に決めて貰うのが

\*\*\*\*\*覚えておくくと便利・ニット豆辞典\*\*\*\*\*

一番良い方法だと思つたのですが、我が日本ではまだそこまでは進んでいないようですので、当分は上代あります。
それに、今までの大量生産、大量販売、大量消費の時代から、いいもの確実に、その分相利をしっかりと取る、という時代に入っていると思つてます。

どんなデザインでニットを作るか、という物造りがアパレルの特徴なら、どんな売り方をするかというのもアパレルの大きな特徴だと思います。

口紅は羊の贈物

紡績会社はオーストラリアやニュージーランド等から、大量の原毛を輸入します。その原毛を紡績する前に、汚れ等を取り除くために洗浄します。その時、汚れの他に羊の脂が取れます。この脂はラノリン脂といい、羊の肌に暮を作って肌を守っていたものです。

当時、鐘ヶ淵紡績がこの大量に取れるラノリン脂を使って、人間の肌を守るための化粧品を作り始めたのが、カネボウの始まりだそうです。カネボウ化粧品の口紅やクリームは、リサイクルのはしりだったのです。今では鐘ヶ淵紡績よりリサイクルで始まった、カネボウ化粧品のほうがずっと馴染みがありますよね。



ニットの始まりは靴下から



7世紀頃エジプトに登場したのが始まりだそうです。靴下がスタートというのがなんだかユニークですね。
16世紀頃では大変な貴重品で、エリザベス女王が何かの貴族から贈られた靴下を大変大事に使っていたそうです。

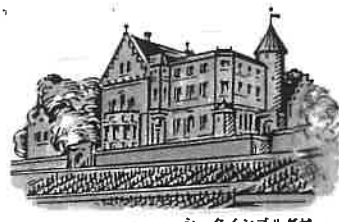
今では3足千円ややっぱり文明が進むと、下々の生活も豊かになるんですね。靴下に関してはエリザベス女王よりずっと賢況。

茶のみ話

ニット屋になる前は海外旅行の添乗員でした。チャンスがあったら是非お聞め

古城のホテルに泊まる

しばし中世貴族の気分



シュタインブルグ城

ヨーロッパを旅していると、よくこんな風景に出会います。
なだらかな丘の連なりに豊かな畑が広がり、緑溢れる森を抜けると、ゆたたりとした河の流れに出逢います。

やがて河岸に教会の先塔が見えてくると、その教会の回りに、昔ながらのたたずまいの街が風づき、街を見下ろす高台には中世からの古城がそびえています。

映画のシーンみたいで気障っぽいけど、こんな情景はヨーロッパの田舎では、ごくごく普通なんです。

そんなヨーロッパを旅する楽しみの一つに、その古城に泊まる、というのがあります。

古城といったら、入場料を払って見学するということになりそうですが、ヨーロッパにはこのお城にゲストとして泊まれる古城ホテルがたくさんあります。

立派な館や庭園、広大な農園を先祖から相続した領主の末裔たちは、今の世ではこの遺産を維持していくことはなかなか大変な様で、お城にお客様を泊めることで、古城を維持しているケースが多いようです。

長い歴史を刻む家具やインテリアに囲まれて、中世にタイムスリップしたり、広大な農園や庭園を散歩したり。リゾート気分になれて、なかなかいいもんです。

大人気では無理ですが、古城ホテルを宿泊に取り入れることは、旅を作るテクニックとしては大変有

効です。かえってこつちをメインにしてスケジューリングを組むときもあるくらいです。

でもいい事づくめでもないんです。大抵の古城ホテルはそんなに部屋数は多くはないんです。その上部屋の大きさや種類もバラバラというケースが多いんです。

ドイツのシュタインブルグという古城ホテルに泊まったときのことです。

このお城は市内を一望する丘の上に建ち、回りは一面のぶどう畑です。

客室はもろろん、尖塔(せんとう)部分も改装して部屋を作った為に、部屋が円形なのです。そのうえ窓は鉄砲を撃つための覗き穴だけ、という珍しい部屋。

またベッドルームより風呂場の方が三倍も広いという面白い部屋。これは王様用のお風呂場で、ベッドルームになっている部屋はなんと更衣室。皆で大笑いしたり、笑い湯したり。

これでお分かりのように、古城ホテルのツアーで最も大変なのが、部屋割り。

部屋のタイプが違うことを良く理解してもらい、風変わりな部屋などは二度と泊まることはないだろうから、豪華ホテルでお金を積んでも経験できないことを楽しんでもらうこととです。

でも一番いい部屋や、めずらしい部屋は皆の集まる場所になり、ワイワイ、ガヤガヤになるのが常です。

ドイツのロマンチック街道にある、ネルトリンゲンという街での泊まりは、ドイチェス・ハウスとい

って、昔はこの街の市長舎だったホテル、この時にはもちろん元市長が集合場所でした。

